

高校時代に見つけたやりがいのある仕事、夢を叶えて経験を積む、介護福祉士

キャリアアップ

松田遥奈さん / 26歳

シティケア長住（特別養護老人ホーム）
介護福祉士

キャリア

高校時代	介護の仕事に興味を持つ
18歳	福祉系の専門学校に入学
20歳	介護福祉士として特別養護老人ホームに入職
25歳	現職に転職

ある日の一日



POINT

- やりがいを感じられる仕事に就きたいと思ったのがきっかけ
- 人生の最期に寄り添うという、普通じゃできない経験をさせてもらっている
- とにかくたくさん経験を積みたい！

福祉の仕事をする前は何をしていた？

— 高校時代に考えた“将来の夢”

介護の道に進もうかな、と思ったのは高校生の時です。クラス内での自己紹介の時に、将来の夢を言わないといけなくて。その時に「将来の夢かぁ。」と思って考えたんですが、デスクワークは「私は何をやっているのかな」って思いそうな気がして苦手だと思ったんです。「この人のために頑張っている」と感じられる人相手の仕事は、頑張れそうだと思います。子どもはあまり得意ではないので、高齢者に関わる仕事がいいかな、と思ったのが始まりです。その当時は、デイサービスっていうものがある、くらいしか分からなかったのですが、漠然と高齢者に関わる仕事に決めた感じです。

— 専門学校の先生の話聞いて、進学を決める

しばらくして、高校の授業で職業講話がありました。いろんな職種の方に来て頂いて、自分が興味のあるお話を聞かせてもらうという授業です。その中に「介護」があったので、話を聞いてみました。専門学校の先生が来られていたのですが、介護はつらいこともあるけど、「ありがとう」の一言で疲れも吹き飛ばすような、やりがいのある仕事だと話されていました。それを聞いて、やっぱり介護の仕事は良さそうだなと思い、その先生がいらっしゃる専門学校に進学しました。卒業と同時に介護福祉士を取得して、実習でお世話になった、地元長崎の特別養護老人ホームに就職しました。

❗ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 思ったとおりの、やりがいのある仕事



仕事を始めた頃は、学校で習うやり方が合わなかったり、介助で腰を痛めたこともあって大変なこともありましたが、でも、確かにやりがいのある仕事だなと思います。介助に入っている時に、「あんたがやってくれてよかった。」と言われると、私はお給料も頂いているのに、そんなことまで言ってくださって、こちらこそありがとうございます、という気持ちになります。その方の言葉が支えになっていた時期もあります。

あとは、最期の看取りをさせて頂いたこともあって、こんな経験はこの仕事でなければできないだろうなと思います。痛いんだろうな、苦しいんだろうな、と思っても私には何もできなくて、それがとてももどかしく感じました。落ち込んだり悩んだりした時には、他のスタッフに相談します。共感してくれると気持ちも落ち着きます。

いま一番の目標は、喀痰吸引の資格を取ることです。自分もできればいいなと思うことがよくあります。

❗ 仕事以外はどんな生活をしている？

— コロナが落ち着いたら、ライブに行きたい

一昨年末まで長崎で暮らしていたのですが、もっといろんなところを見てみたいと思い、福岡に引っ越してきました。引っ越してから福岡で仕事を探し、今の職場に入職しました。でも、引っ越してきた直後にコロナ禍に入ってしまったので、まだ福岡で遊んだりできてないんです。

休みの日は、あまり人と会わない方がいいかなと思って、人の少ないところでお買い物をして、あとは家でゆっくり過ごしています。Youtubeで動画をよく見えています。

昔から音楽が好きで、バンドのライブにも行っていたのですが、コロナ禍で中止になっているので残念です。代わりに、オンラインライブを自宅で楽しんでいます。まだしばらくの間は行かない方がいいかなと思うので、コロナが落ち着いたら、とにかくライブに行きたいです。あとは、地元に戻って、友達にも会いたいですね。



取材を
終えて

穏やかで優しくそうな雰囲気を持つ松田さん。まだしばらくは、特養の現場で頑張りたい、いろんな経験を積みたいと話されていて、目の前の利用者さんを大切に思う姿が印象的でした。